

建設候補地周辺自治会説明会要旨

- 1 説明会 新最終処分場建設候補地周辺自治会説明会
- 2 開催日時 令和2年12月19日（土）午前9時30分から午前11時20分まで
- 3 開催場所 マリアージュ
- 4 参加者 24人（傍聴者は、一関地区広域行政組合議会議員4人、岩手県議会議員1人）
- 5 事務局

勝部修管理者、青木幸保副管理者、佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター7名（以下、日環センター）

6 説明

- (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
- (2) 施設の概要
- (3) 今後の予定について
- (4) 情報提供「施設の整備手順」

7 あいさつ

組合では、現在、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場の整備を進めており、新最終処分場の建設候補地を「千厩字北ノ沢ほか」に絞り込んだ。

施設整備を進めるに当たっては、建設候補地周辺にお住いの皆様や地権者のご理解をいただけるよう、丁寧に説明し、合意形成を図っていきたい。

一般廃棄物処理施設は、住民の生活に必要な施設であることから、圏域全体の発展に寄与する施設となるよう努めるので、多くのご質問やご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
配付資料により事務局が説明を行った。
- (2) 施設の概要
配付資料により事務局が説明を行った。
- (3) 今後の予定について
配付資料により事務局が説明を行った。
- (4) 情報提供「施設の整備手順」
日環センターが情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 建設候補地と千厩高校との距離は、具体的にどの程度離れているのか。

事務局 現在は廃止されている旧建設省の通知に、廃棄物処理施設は学校などから300メートル以上離すこととされており、この通知に準じ候補地選定の条件とした。

候補地として示しているものは、施設の概略検討の図であり、今後、地形測量や地質調査をした上で施設の設計を具体的に検討することになる。施設の設計が終わるまでは、最終処分場の敷地が決まらないため、設計した際には千厩高校との距離を計測して皆様にお知らせしたい。

参加者 最終処分場の整備により、具体的にはどのような有益性が見込まれるのか。メリットとデメリットを整理して説明願う。

事務局 最終処分場の整備により、周辺環境整備が行われることになる。整備について具体的なことは決まっておらず、これから協議をしながら進めていきたいので、いろいろなご提案をいただきたい。行政側から一方的に事業を進めるのではなく、協働でまちづくりを進めたい。

また、交通量の増加などに対する心配があるかと思うが、最終処分場は新処理施設から毎日トラックが3往復から4往復程度あるだけなので、急激な交通量の増加はない。物理的に大きなデメリットはないと思うが、精神的な面については配慮しなければならないと考えている。

今後、説明会という形ではなく、懇談するような機会を数多く行い、具体的なことを積み上げていきたい。本日はその第一歩と思ってほしい。

参加者 技術には限界があり、機械的にも誤差は生ずるものである。最終処分場でも必ず誤差がある。

事務局 科学的、工学的に誤差があるのではないかとのことだが、一方で安全率という考え方がある。施設整備に係る基準値自体が安全率を見込んでいるものであり、施設を設計するに当たっては、その基準を上回る形で進めるので、二重に安全率を見ることになる。つまり、設計の時点で既に誤差は見込んでいるということ。

また、機械は、保守点検を行い、良い状態を保持する。壊れれば直すということではなく、壊れそうになった時点で交換していく。センサーに誤差が生じることは織り込み済みだが、しっかりと保守点検を行い、管理していく。

参加者 技術的な説明をいただいても、素人には理解が及ばない。できれば、現在の施設や他の自治体で近年に整備した施設などを見学する機会を設けてほしい。

事務局 実際に施設を見ていただくことがご理解していただくことにつながりやすいと思うので、見学の機会をつくりたい。

参加者 説明会に若い世代の出席がない。本当に考えなければならないのは、若い世代だと思う。今後、若い世代の意見を汲む機会は予定されるのか。

事務局 こういった説明会は、今後、何度も開催したい。その開催日時についても、若い世代の方が参加しやすいよう、相談の上で配慮したい。若い方に参加いただくことが必要と感じている。

参加者 候補地の評価区分である「安定性に優れた安全な施設」の評価項目「亜炭採掘鉱区」とはどのようなものか。

事務局 組合管内には、亜炭が点在する地層がある。亜炭は、戦時中、燃料として採掘され、その坑道が残っている場所がある。そういう場所は、地盤が安定しないため対策が必要となることから、その点を評価したものである。

参加者 施設からの排水は、北ノ沢川に放流されるのか。

事務局 最終処分場は、埋立地から出る浸出水を水処理施設で処理し、きれいな水にしてから放流する。生活環境影響調査を行った上で放流先などを検討していくので、現時点では放流先は未定だが、北ノ沢川が考えやすい。

参加者 水処理施設には発電機は設けられるのか。発電機がなければ停電の際に自動的に運転が切り替わらないのではないか。

事務局 発電機を備えるかどうかは、今の段階で決定するものではないが、通常は発電機を設けない。

停電したときは、水処理を停止し、水の放流も行わない。水処理の停止中は、調整槽に貯めておくこととなる。

参加者 最終処分場の候補地は、北ノ沢ありきの出来レースだったのではないか。4月には北ノ沢に決まったと聞いている。5月下旬には地元の建設会社が北ノ沢にできるらしいと話をしていて、6月上旬には大手ゼネコンが一関の千厩で100億の仕事があると話している。誰かが言わなければ分からないはずだ。

事務局 今から2年以上前になるが、専門家による施設整備検討委員会を組織し、一関市と平泉町の全域から3段階で候補地を選定した。第1次選定では、法的規制や災害の影響など不適切と考えられる地域を除外した。つまり施設や設備が安全であっても、整備場所によってはその機能を発揮できないため、安全性を確保できないおそれがある場所を除いた。第2次、第3次選定は、加点方式での評価であり、施設の機能をさらに高めることができる場所を選定した。その結果として委員会で選定された4か所の候補地を当組合の候補地として決定し、そこから絞込みを始めた。

絞込みに当たっては、まず、望ましい施設の在り方を検討した。その検討結果

が基本方針に掲げる4区分である。次に、その基本方針は、どういう項目を満たせば果たすことができるかを考えた。第1回から第3回の住民説明会では、その考え方を説明し、それに対する意見をいただいた。第3回住民説明会では、実際に評価項目の評価作業を進めた中間の状況を説明した。第4回住民説明会では、全ての評価作業を終えた状況を説明した。

このように、候補地の評価については、その都度、検討の状況を説明し、それに対する意見をいただきながら進めてきたものである。第4回住民説明会で、「千厩字北ノ沢ほか」は、周辺の住宅が多いのでそういうことも評価するべきではないかとの意見をいただいたため、その意見を反映して候補地周辺の住宅の状況を評価する項目を追加した。したがって、第4回の住民説明会のときよりも評価項目を増やしている。

この候補地の評価をまとめたものを当組合と一関市及び平泉町で協議し、最も評価の高かった1か所に絞りこんだところである。

このように絞込みを進めてきたものであり、ゼネコンがどうという話であったが、行政としては全く承知していないことである。

参加者 ごみ処理施設及び最終処分場は、一関市と平泉町にとって長年の懸案事項だった。新施設は、行政にとっても住民にとっても有益な施設とすることが大前提だと思う。住民には、多くの不安や様々な意見があると思う。今後、環境調査や基本設計が進められた際には、具体的な議論ができると思う。意見を集約し、説明会を有効的に進めるため、協議会のような組織が必要ではないか。まちづくり協議会などでも、そのような議論をしている。そのような組織を地元で組織した場合、組合として認めてもらえるのか。

事務局 これから計画が進む都度、本日のような説明会を開催したい。

施設が稼働する段階になれば、環境調査の結果をどのように周知するかなど様々な取り決めが必要になり、それを将来的に継続していくことも大切である。

窓口となる組織があれば、スムーズに進められると思う。

10 担当課 総務管理課

建設候補地周辺自治会説明会要旨

- 1 説明会 エネルギー回収型一般廃棄物処理施設建設候補地周辺自治会説明会
- 2 開催日時 令和2年12月20日（日）午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター平沢分館
- 4 参加者 27人(傍聴者は、一関地区広域行政組合議会議員1人、一関市議会議員1人)
- 5 事務局

勝部修管理者、青木幸保副管理者、佐藤善仁副管理者、高橋邦夫副管理者、村上秀昭事務局長、小野寺啓総務管理課長、小野寺正行一関清掃センター所長、菅原彰大東清掃センター所長、吉田健総務管理課施設整備係長、中村謙介総務管理課主査、一般財団法人日本環境衛生センター6名（以下、日環センター）

- 6 説明
 - (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
 - (2) 施設の概要
 - (3) 今後の予定について
 - (4) 情報提供「施設の整備手順」

7 あいさつ

組合では、現在、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設と新最終処分場の整備を進めており、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設の建設候補地を「弥栄字一ノ沢ほか」に絞り込んだ。

施設整備を進めるに当たっては、建設候補地周辺にお住いの皆様や地権者のご理解をいただけるよう、丁寧に説明し、合意形成を図っていきたい。

一般廃棄物処理施設は、住民の生活に必要不可欠な施設であることから、圏域全体の発展に寄与する施設となるよう努めるので、多くのご質問やご意見をいただきたい。

8 説明内容

- (1) 建設候補地の絞込みの経緯について
配付資料により事務局が説明を行った。
- (2) 施設の概要
配付資料により事務局が説明を行った。
- (3) 今後の予定について
配布資料により事務局が説明を行った。
- (4) 情報提供「施設の整備手順」

日環センターが情報提供を行った。

9 質疑応答

参加者 新処理施設へ廃棄物を搬入する車両は、1日当たり何台になるのか。

事務局 現在、2施設ある焼却施設の実績では、1日当たり140台から150台程度となっている。新処理施設に搬入する車両の台数も同程度と推測されるが、廃棄物の量が今後減少する見込みなので、台数も現状から減少することが見込まれる。

参加者 4か所の候補地の中で「弥栄字一ノ沢ほか」が最適と評価され、建設候補地となったが、他の3か所の候補地でも建設できるのではないか。

事務局 他の候補地が建設に適さないということではなく、最も建設に適した場所として「弥栄字一ノ沢ほか」を建設候補地に絞り込んだ。

参加者 新処理施設で使用した水は、どこに排水されるのか。

事務局 新処理施設では、1日当たり100トン程度の水の使用を想定している。処理に使用した水は、排気ガスの冷却に使用することにより蒸発するため、排水としては放流しない。

なお、敷地内に降った雨水は、新たに整備する防災調整池に集めて定量的に放流することになる。

参加者 新処理施設からの臭いはどうなるのか。現在のリサイクル施設の見学に行った際は、嫌な臭いがあった。

事務局 物が腐敗したり様々な臭いが混ざり合うと、ごみ特有の悪臭が生じる。

焼却施設でごみを貯留するごみピットという設備の中は、ものすごい悪臭が充満しているが、外に臭いが出ないように、ピットゲートという頑丈な扉のような設備で密閉する。ごみピット内の悪臭を含む空気は、廃棄物の燃焼に必要な空気として吸引するため、ごみピット内は負圧になり、扉を開けたときにごみピット内には空気が入っていくが外には出ていかない仕組みである。

ごみの燃焼に使われる空気に含まれる悪臭は、燃焼により臭いの元である有機物が無機化され、分解される。消臭の方法は様々あるが、燃焼による無機化はその中でも最も効果的な方法とされている。

リサイクル施設は、焼却処理を行う施設ではないため、悪臭対策の方法が違いますが、今後、体感として理解できるよう、他の焼却施設を見学する機会を設けたい。

参加者 狐禅寺地区に新たな廃棄物処理施設を整備することを地域の住民と協議していたとき、余熱活用施設として多目的施設の整備を提案していたようだが、整備費として10億円以上の経費をかけると聞いた。

新処理施設の余熱活用は、どのように考えているのか。

事務局 まず新処理施設の整備を確実に計画どおりに進めたい。

それと並行して、どういうものが地域として必要か、地域の皆さんと相談する場を持ちたい。地域の方々と話し合いを重ね、つくり上げていく必要がある。まさに、これからが本当の意味での協働ということになる。

参加者 建設候補地は、国道284号から入っていく場所になる。

国道284号は、岩手県でも国道4号に次ぐ交通量がある道路であり、交通事故の増加が心配である。道路改良などの安全対策をお願いする。

事務局 交通対策は重要と考えており、これまでの住民説明会でも国道284号の交通安全対策を求められている。

施設の整備により周辺住民に迷惑をかけることのないよう、道路管理者である岩手県と連携を取りながらしっかりと対応していきたい。

参加者 候補地と小学校の距離が近い。児童の保護者が心配しないよう、ダイオキシン対策などについて説明をしてほしい。

他の自治体の廃棄物処理施設では、その周辺に広大な運動公園や子供の施設などがあり、いい施設だと思うところもある。今後とも地域のためになる施設になるようにアドバイスをいただきたい。

事務局 他の事例として、住宅団地の中に処理施設があり大学病院や学校が近くにあったり、施設整備によって周辺の開発が進んだところもある。

これまでの説明会で、ダイオキシンなどの汚染物質の心配はないということについて、環境基準や排出基準、自主基準という点から説明してきたが、短時間での説明であったことから、丁寧に分かりやすく説明する機会をいただければと思う。

今後も皆さんと意見交換をしながら、より良い地域づくりを進めたい。

参加者 建設候補地周辺のこの平沢地区で、施設整備に賛成や反対で争いになることは避けたい。

様々な説明を受けてきたが、頭では分かったつもりでも具体的には理解ができていないことも多いと思う。この先、協議会のようなものがつくられると思うが、現地調査などを含めながら、理解が深まるよう進めてほしい。

事務局 実際に施設を見てもらうことで理解が深まると思うので、そういう機会をつくりたい。

また、協議会の組織化についても、今後、相談できればいいかと思っている。

参加者 所有する土地が勝手に候補地にされた。事前に何の連絡もなかった。

自分が拒否すれば別な場所が候補地になるのか。

事務局 事業の範囲がまだ決まっていないので、候補地の土地所有者には説明会の案内はしているが、個別にはどなたにも連絡をしてこなかった。

建設候補地として1か所に絞り込んだので、今後、地権者の方々に説明したいと考えている。手順が逆になったかもしれないが、その点についてはご容赦いただきたい。

納得いただけるまで説明していくので、その上で判断していただきたい。

参加者 若い世代が説明会に参加できていない。興味がないわけではなく、理由があつて来ることができないのだと思う。

地域みんなで施設を整備していきたい。若い世代の意見を集めるため、説明会だけではなく、インターネットなどを活用してのアンケートなどの実施を検討いただきたい。

事務局 若い方の意見もぜひ伺いたい。将来を担う若い人の意見が大事であるという意見もいただいているので、手段はこれから検討していくが、若い世代の意見もいただけるような方法も考えたい。

10 担当課 総務管理課